

教育目標

豊かな心を持ち、よく遊び、健やかに伸びる子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年8月29日（月）	京都市立深草幼稚園学校運営協議会
最終評価		

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・身近な環境に心動かし、興味の幅を広げたり、探究心を生み出したりしていくために ICT 機器の活用を積極的に試みる
- ・個々やクラスの遊びを大事にしながら、異年齢の子どもたちが共に感じ合い、つながり合えるような遊びを計画的に取り入れ、園庭や遊戯室など共有の場を活用した環境も構成する
- ・友達の刺激を受けながら、意欲をもち、自ら体を動かしたくなるよう、運動遊具を十分楽しめる場をつくり、教師も共に楽しみ、遊びのモデルとなる。（縄や竹馬、三角馬など個人持ち遊具も活用）
- ・生き物や植物に愛着をもってかかわり、変化や生長に気づいたり、喜びを味わったり、大切にしようという気持ちをもったりできるよう継続した飼育・栽培活動を行う。
- ・絵本や物語に親しみ、想像する楽しさや豊かな心を育むために、家庭と連携した「親子で絵本！」の取組と、園内掲示板・園便りの発信を啓発する。
- ・身近な自然環境や可塑性のある素材に全身で触れ、思いを表出できる環境を整え、感じたり、思ったりしたことを、言葉や身体、絵画、音楽などを通して表現する楽しさや喜びを感じられる表現活動を行う。
- ・遊びや生活の中で、またグループ活動や異年齢活動などの中で、思いの違いに気づき、自分の気持ち

を調整したり折り合いをつけたりする葛藤体験, 互いに力を出し合ったり助け合ったりする気遣いや思いやりが芽生えるような場面を大事にした保育を展開する。

・一人一人の子どもが認められる中で、個々の発達課題に応じた取組を進める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案による振り返りや日々の保育カンファレンスにより子どもの姿のみとり
- ・園内でのエピソード研修や研究保育による保育の協議により、子どもの姿のみとり
- ・保育活動充実のための ICT 活用についての振り返り
- ・アンケート項目
- ①「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている」
- ②「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」
- ③「子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる」
- ④「子どもは、自分の思いを話したり、友達の話の聞いたりしている」
- ⑤「子どもは、幼稚園きょうだいを知り、親しみを感じ始めている」
- ⑥「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」
- ⑦「子どもは、絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しみにしている」
- ⑧「子どもは、いろいろな人とかわる中で様々な感情(喜怒哀楽)を感じている」
- ⑨「子どもは、感じたり思ったりしたことを様々な方法で表そうとしている」
- ⑩「子どもは、手洗いや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」

中間評価

各種指標結果

○担任との信頼関係を築きつつ、様々な遊びや体験を積み重ね、保育の振り返りやカンファレンスにより一人一人の子どもの姿のみとりや幼稚園きょうだいの姿、クラス全体としての姿をみとった。

・しっぽ取りや巧技台、プールでの水遊びなど多様な体の動きを楽しみ意欲的に楽しんだ。

・子どもたちは担任や友達とのかかわりを楽しみ相手とのかかわりの中で共感し合って遊ぶ姿が多くみられる。一方で、人間関係の中で折り合いをつける経験はやや少なかった。

・砂・泥・水・絵の具・紙など様々な素材に触れ、感触を楽しんだが、導入できなかった素材もあった。

・虫の飼育、一人一鉢栽培や育苗と苗屋さんの活動などの栽培活動、園外保育での竹林体験など自然と関わり、様々な気づきや生長の喜びなど命をいつくしむ土壌が培われた。

○園内研修において、幼稚園きょうだいのかわりについて研究保育や事例検討を行った。行事でのかわりの他、なかよし遊びを計画的に行ったり、遊戯室や園庭など共有スペースの使い方を工夫したりして、異年齢でのかわりの広がりをとらえるとともに様々な感情の揺れをとらえた。

○ICT を活用することでチョウやカマキリへの関心がたかまり、意欲的に小動物にかかわろうとする姿につながった。一人一鉢栽培や育苗活動など植物の成長に関心をもち大事にしよとする姿が見られた。

【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】

①A83%B17% ②A83%B17% ③A100% ④A30%B57%C9%D4%

⑤A43%B48%C9% ⑥A61%B39% ⑦A48%B39%C9%D4% ⑧A78%B18%C4%

⑨A43.5%B43.5%C13% ⑩A39%B57%C4%

自己
評価

分析 (成果と課題)

・様々な素材の感触を楽しんだが、経験したい他の素材もあった。また、アンケート⑨思いを様々な方法で表す:A43%となっている。今後も多様な素材に触れる機会をもつとともに、表現する楽しさを感じられるよう援助していきたい。

・体を動かすことが楽しいと感じるようになってきている。アンケート②体を動かすことを楽しむA83%と保護者も同じように感じている。今後は、さらに意欲的に遊べるようルールのある遊びを

工夫し取り組む。また、新しい個人持ち遊具(竹馬三角馬)はようやく遊び始めたところである。今後も継続し、満足感や達成感を感じてほしい。運動会に向かう活動の中でそれぞれのめあてに向かって意欲をもって取り組んだ。自信をつけてきているので、今後も遊びの中で十分体を動かし、多様な体の動きを体験できるように取り組んでいきたい。

・飼育栽培活動では ICT の工夫により、命への愛着や不思議さを感じる心を育むことができた。アンケート⑥飼育栽培を楽しむ A61%B39%と A がやや低いものの AB で 100%である。今後も不思議さを感じる心や自然に親しみ感謝する気持ちなどはぐくみたい。

・アンケート②A100%にあるように、友達や先生とかかわることを楽しんでいるが、自分の思いを十分に表し伝えその上で互いの思いが異なる状況が遊びや生活の中にあっただろうか。アンケート④思いを話したり聞いたりする A30%と低い。相手へのやさしさ、思いやりなどとともに、十分に自己発揮し、のびのびと思いを表し、遊びの中で、相手との意見の相違に気づいたり、相手の思いを聞いたり自分の考えを伝えたりする経験ができるようにしたい。そこに生じる葛藤などの心のゆれを大事にし、折り合う経験につながるように取り組んでいきたい。

・ICT は教員が意識することで活用の幅が広がる。保育を豊かにする、子どもの経験を豊かにするための ICT 活用という意識を持ちながら、iPadなどを保育の日常に取り込むようにしたい。

・毎月掲示版や園だよりで絵本を紹介し、親子で絵本に関心をもてるよう働きかけた。毎週の絵本貸出では喜んで絵本を選んでいる。しかし、アンケート⑦絵本やお話が楽しみ A48%B39%C9%D4%と保護者もあまり手ごたえを感じていない傾向。保育での読み聞かせの場面を丁寧に振り返りたい。

・基本的生活習慣の自立にむけ、園内では自分のことは自分でするよう取り組み、プール時期の着替えなど身についてきていると感じる。しかし、保護者アンケート⑩A39%B57%C4%であり、家庭と園との認識の差がある。着替えや手洗いうがいなど、子どもができるようになると、できて当たり前となり、大人も褒める機会を逃しているかもしれない。できて当たり前のことでも、身につける、定着するために、丁寧に認めていくよう、家庭と園とが連携しながら子どもたちに力をつけられるようにしたい。

分析を踏まえた取組の改善

・表現活動に取り組む、様々な素材に触れて楽しむとともに、思いを表現する楽しさを感じられるようにする。

・前期に続き、一人一鉢やグループでの栽培を継続したり園外保育で地域の自然にかかわったりする。子どもの興味や意欲がより高まるよう ICT を活用する。

・いろいろな人とかわり、様々な感情体験ができるよう幼稚園きょうだいの取り組みを継続する

・遊びの中で十分自己発揮をしたり、互いの思いや考えの違いに気づいたり、困ったり、共感したりする機会をとらえる。クラスの集まりの場で話し合いをする場を設ける。

・クラスで読み聞かせた絵本や保育に取り上げている絵本をタイムリーに保護者に紹介したりえほん室の棚に配架したりする。

・身の回りのことを自分で行ったり、自分の力で生活をすすめようとしたりする姿を認めるとともに家庭にも伝えていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

・週案による振り返りや日々の保育カンファレンス、園内研修による協議による子どもの姿からのみとりを継続していく

アンケート:前期項目に加え、⑦-2子どもは幼稚園で様々な絵本にふれ楽しんでいる。

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <div>・今年度は感染症対策をしながら運営協議会の活動が再開したことで保育の様子を見たり、子どもたちと関わることができた。コロナ禍のなかでも、子どもたちが元気に活動できていること、子どもたちが様々なことに心を動かしていることが感じられた。</div>
---------	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2) 幼小連携・接続に関して

<div>具体的な取組</div> <div>・小学校生活が感じられるよう、小学校を訪問したり、映像で見たりしながら小学校生活を具体的に想像したり期待を膨らませたりする。</div> <div>・『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を手掛かりとしながら、5歳児から1年生までのそれぞれの時期に大事にすべきことを、架け橋期のカリキュラムの具体化を意識した連携の在り方(保育授業公開・交流など)を探る。</div>
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <div>・連携や交流保育の事前事後の振り返りや、合同研修などの実施回数</div> <div>・アンケート項目 ①「幼稚園は、保育所・小学校・中学校との連携を大切にしている」</div>

中間評価

<div>各種指標結果</div> <div>・小学校と年間の交流活動とともに、事前事後の話し合いや協議を行うように計画した。協議しやすいよう teams も活用。・地域の小学校とともに研修会に参加し、接続の架け橋期について協議を行った。</div> <div>・育苗した苗を進学先の小学校へ持って行った。特に深草小学校へ届けた時には校内を見学し授業参観を行った。</div> <div>・京都府幼児教育研究協議会に参加し、小学校とともに協議を行った。</div> <div>【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】</div> <div>①A65%B35%</div>	
自己評価	<div>分析 (成果と課題)</div> <div>・小学校訪問では自分の苗を小学校に届けられという喜びを感じるとともに、実際の小学校の手洗い場やトイレなどを使ってみたり、授業を参観したりしたことで、小学校と幼稚園の違いや同じところを見出し小学校生活へのイメージがわいた。実際に小学校に行くという経験により小学校が身近な存在になったと感じる。保護者アンケートも AB 評価で 100%である。</div>

	<ul style="list-style-type: none"> ・事前打ち合わせなどはねらいをもってできたが、事後の話し合いがタイムリーにはできていない。 ・京都府幼児教育研究協議会の動画視聴後、小学校と行った協議の中で、1年生と5歳児の子どもの実態を共通理解できた。また、子どもにかかわる幼稚園・小学校教員の願いや姿の見取りなど共通するものが多く見いだせた。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・teams を活用し、事前事後の打ち合わせを効率的に行う。 ・「育つもの」への共通理解を進めるため、10 の姿のキーワードをもとに、実際の幼児・児童の姿や、幼・小それぞれが大事にしていること、育つものについて協議を深める。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の事前事後の話し合いで、接続期の育ちをつなぐことについて協議をすすめる。 ・teams の活用状況
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策をしながらも小学校との交流活動ができることはよかった。Teams 活用など新たな連絡方法の活用はどうか、今後期待する。 ・幼稚園学校運営協議会・深草小学校学校運営協議会がそれぞれに「昔遊び」に取り組む。何かそこで連携につながるものがあれば協力したい。

最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div>
自己評価	<div>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

(3) 預かり保育に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育や長時間預かり保育利用の子どもの心身の負担に配慮しつつ、教育課程に係る時間内の保育と連携した内容を考慮した遊びの環境づくりや援助を行う。 ・早朝預かり保育の主旨を伝え、保護者への理解と利用を促し、家庭との連携を深める。 ・伝達ボードを活用し、園と家庭との連絡連携を図る
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育週案による振り返り ・預かり保育の参加人数 ・アンケート項目 ⑫「子どもは、ふかふかランド(預かり保育)の時間を楽しみにしている」 ⑬「伝達ボードは園と家庭の連絡連携に役立っている」

⑭「早朝預かり保育や預かり保育は家庭の子育ての支援となっている」

中間評価

各種指標結果	
<p>・早朝預かり保育(延べ参加人数)4月:1人 5月:14人 6月:17人 7月:20人</p> <p>・保育後の預かり保育(延べ人数)4月:121人 5月:187人 6月:188人 7月:216人</p> <p>・早朝預かり保育・預かり保育共に、週案を振り返り、必要に応じて担任とも連絡を取り合いながら活動の振り返りを行い、次の環境構成の工夫を行った。</p> <p>・保護者に園の様子を伝える伝達ボードは、連絡事項だけでなく、担任が保育で大事に思ったポイントを掲載するように工夫した。</p> <p>・保育終了後の預かり保育では知育玩具を中心にしながら、場合によっては戸外活動も取り入れるなど取組の工夫を行っている。サッカーや毎月の折り紙カレンダー製作は人気である。また、興味を持ちそうな製作活動を取り入れたり、七夕飾り製作など教育課程内と連動した活動も取り入れたりした。</p> <p>【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】</p> <p>⑫A74%B22%C4% ⑬A65%B35% ⑭A91%B9%</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>・早朝預かり保育では、少人数の良さを生かし、担当者とゆったりと過ごし、スムーズに保育時間を迎えている。少しずつ利用人数も増えてきた。今後も各家庭のニーズにこたえていきたい。</p> <p>・ほぼ毎日参加する子どももいるので、活動がマンネリ化しないよう工夫している。アンケートにも「喜んで参加している」A74%となっている。一方、C評価もわずかにある。今後も子どもたちが安心して楽しく過ごせる預かり保育を目指し取組の工夫を重ねる。</p> <p>・事前申し込み制だが、随時、紙の変更届にて受け付けている。ICT 活用で保護者・幼稚園共その手続きの利便性を向上したい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・預かり保育内容は前期同様、子どもの姿に応じて安心して楽しめる内容を工夫していく。</p> <p>・預かり保育申し込みに柔軟に対応し保護者の利便性を図るとともに、幼稚園の業務改善のため、9月～3月試行として連絡アプリを導入する。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>保護者アンケート:連絡アプリによる預かり保育利用申し込みは便利である</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・早朝預かり保育が始まったばかりだが、利用があるということは保護者の支援になっている。</p> <p>・預かり保育での絵本読み聞かせを2学期から始める。園児とともに絵本を楽しむ時間を大事にし、園の教育活動の一助としたい。</p>

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善

学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
---------------------------------	----------------

(4) 子育ての支援に関して

<div>具体的な取組</div> <p>・教育相談として未就園児たまご組(0～3歳児親子), ぷちひよこ組(2歳児親子)ひよこ組(3歳児親子)を実施し, 発達に応じた遊びや活動の場を提供する。</p> <p>・在園児保護者, 未就園児保護者が参加するほっこり子育てひろばを実施し, 保護者がつながる場を設ける。</p>
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <p>・教育相談各クラスの実施回数と参加者数, 内容の振り返り</p> <p>・ふかふかタイム(ほっこり子育てひろば)の実施回数と参加者数, 内容の振り返り</p> <p>・アンケート項目</p> <p>⑮「深草幼稚園の教育相談は家庭の子育て支援となっている」</p> <p>⑯「深草幼稚園の教育相談で, 子どもは楽しく遊んでいる。」(教育相談参加者対象項目)</p> <p>⑰「ふかふかタイム(ほっこり子育てひろば)は子育てのことをいろいろな人と話せる場となっている」</p>

中間評価

<div>各種指標結果</div> <p>(未就園児クラス 4 月～7 月参加回数と参加のべ人数)</p> <p>ひよこ組(3 歳児) 53 回 毎回 14～15 人参加</p> <p>ぷちひよこ組(2 歳児)(たまご組同時開催日含む)33回 143人</p> <p>たまご組(主に 0・1 歳児) 23 回 156 人</p> <p>・保護者が気軽に子どもと過ごせるよう、乳幼児の玩具や遊びを用意し、園庭では在園児と共に過ごせる場づくりを行った。ぷちたまご組には発達に応じ、石鹸や新聞紙などの遊びを設けた。</p> <p>・ひよこ組は親子登園期間にゆっくりと園生活に馴染み幼稚園への安心感が幼児に培われていった。また様々な遊びが体験できるよう工夫して取り組んだ。幼稚園きょうだいグループも設定し、在園児とのかかわりの場をつくった。</p> <p>【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】</p> <p>⑮在園保護者A70% B30% ひよこ登録者A100% ぷちひよこたまご登録者A50%B50%</p> <p>⑯(教育相談参加者のみ対象項目)ひよこ登録者A90%B10% ぷちひよこたまご登録者A70%B30%(ふかふかタイム(ほっこり子育てひろば)4～7 月)2 回開催 参加 8 人</p> <p>・毎月の誕生会の後に誕生児の保護者対象に開催。ワークシート「認める」を使用しながら、保護者が子育てについてきがるに話せるよう実施。6 月・7 月に同時開催を計画したが、参加希望者がなく、未実施。</p> <p>【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】</p> <p>⑰A30% B65% C5%</p>	
<div>自己</div> <div>分析 (成果と課題)</div> <p>・教育相談に参加した保護者同士で、子どものことや子育ての楽しさやしんどさなどを話しながら、</p>	

評価	<p>自分の子どもだけでなく他の子どもの様子を見ることや他の人の子育て談を聞くことで自分の子育て観を広げたり“これでいいのだ”と安心したりできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に応じた遊びや親子で楽しめる遊びを用意したことにより、保護者は「ここに来れば楽しい何かがある」ことを楽しみにし、期待しているところもある。今後も教材研究を続けていく。 ・教育相談参加保護者のアンケートはAB評価が高く、概ね満足していただいていると思われる。一方、学年によっては登録者数が少ない。気軽に園に遊びに来てもらう工夫が必要。 ・ひよこ組は毎日開催により、幼稚園で安心して過ごし、園での生活の仕方などが身についてきた。保護者の子育て支援となっている意識も高い(アンケート⑩A100%)今後も幼稚園で多様な経験ができるよう様々な活動を取り入れていく。 ・ほっこり子育て広場では、ワークシートを使い、参加者自ら子育てのことを互いに話すことで自分の子育てを振り返る機会となった。6・7月を同時開催したことで参加希望が無くなってしまった。参加しやすいよう誕生会と同時開催にしていこう。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談活動の広報デザインの見直しと広報掲載・配布場所拡大の工夫 ・0・1・2歳児の保護者が気軽に子育てのことを話せる座談会を計画する ・ほっこり子育てひろばに参加しやすいよう誕生会と同日に開催する
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談広報の状況 ・前期に引き続き教育相談開催回数と参加人数 ・ほっこり子育てひろば開催回数と参加者数 取組の振り返り
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に深草幼稚園の教育相談の活動を発信することは続けてほしい。今まで同様協力する。 ・広く発信するために、幼児がいる家庭対象に広報誌を配布するのがよい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり (社会に開かれた教育課程) に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然・文化を活かした実践を通して、地域への愛着や地域の人への親しみをもつ機会をつくる。

<p>・学校運営協議会を中心に、地域の方々と関わる機会を設け、本園への親しみと、教育活動に対する理解・協力・参画を促す。</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>・地域への園外保育での子どもの様子</p> <p>・保護者や地域の声の聞き取り</p> <p>・アンケート項目</p> <p>⑱「子どもは地域への遠足や地域の方の保育参加を通して、この地域に親しみを感じている」</p>

中間評価

自己評価	<p>各種指標結果</p> <p>・2回竹林体験(4月竹の子掘り・6月竹林散歩と維持活動)をした。その中で子どもは生き生きと活動し自ら様々な発見をしていた。また、稲荷山にも出かけ、地域の自然や文化に触れ、親しんだ。</p> <p>・七夕行事では地域の竹材を学運協(なかよし会)により提供していただき、遊戯室いっぱいに広がる笹の香りに包まれ、飾りをつける経験をし、深草の竹を一層身近に感じる事ができた。</p> <p>・チョウの飼育では、青少年科学センターにもお世話になった。8月にセンターに園児の作品を掲示し、家庭からもセンターを訪れる機会となった。</p> <p>・カレーパーティーや七夕行事、こども広場など感染症対策をしながら地域の人とかかわる場をもった。</p> <p>・5歳児は苗屋さんの体験を通し、いろいろな人とかかわるとともに、自分の苗が地域で育っていることを喜ぶ姿があった。</p> <p>・学運教(なかよし会)理事会にて、感染症対策をしながら、できることをできるように工夫しながら今年度の取り組みを行うことを確認し、こども広場の実施が実現した。</p> <p>【アンケート結果(A:そう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)】</p> <p>⑰A65%B35%</p>
	<p>分析(成果と課題)</p> <p>・深草の特色でもある竹林と稲荷山に出かけ共通の体験をすることで、園内での遊びに「竹の子」「竹林」などの言葉が自然と聞かれ、地域が身近な存在になっていることが分かった。また、苗屋さんの活動により、いろいろな人にかかわる経験から自信が付き、自分と地域とのつながりを実感することができた。</p> <p>・感染状況により広く地域の方々に参加していただくことはまだ難しいが、なかよし会の人と複数回出会えたことで名前と顔を覚え始めた。園外にも親しみを感じる人がいることで、自分と地域社会とのつながりを感じている。</p> <p>・なかよし会の方々には園だよりのほか、行事を通じて教育活動にふれていただき、子どもの様子を見ていただけた。こども広場ではPTAと一緒に活動していただきつながりができた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後も園外保育で竹林、稲荷山など地域の自然・文化に繰り返し触れる機会を設ける。</p> <p>園外保育での体験を再現したり、表現したりして、豊かな経験となるよう保育を展開する</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>(前期に続き)・地域への園外保育での子どもの様子 ・保護者や地域の声の聞き取り</p> <p>・アンケート:子どもは地域への遠足や地域の方の保育参加を通して、この地域に親しみを感じている</p> <p>園外保育と日々の保育がつながり、子どもはより豊かな体験をしている。</p>

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・提供した竹が七夕や運動会など保育の中でいかされ、子どもたちが竹は深草地域の特色だと知る機会となっている。 ・2学期の地域への園外保育(稲荷山・消防署見学等)では安全確保として引率補助に協力する。
---------	---

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人が自らの健康を守り気持ち良く働くことが、幼稚園における教育の充実につながるという自覚をもち、自らの働き方についても意識改革を行う ・校務支援員の効果的な活用を進める
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・伝達ボードの活用による、職員会や教職員間での仕事内容の共有の工夫と伝達時間の削減 ・ノー残業デー(水曜日)の設定と職朝での呼びかけ ・土日、祝日及び、緊急の場合を除き、平日の18時以降の電話対応は控える
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・伝達ボード活用の振り返り ・教職員の勤務時間及び年休取得状況 ・ノー残業デー(水曜日)の退出時刻

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間が職種によって異なるため、伝達ボードを活用し情報共有に努めた。 ・ノー残業デーを設定したものの、実施には不十分なところがあった。 ・18 時以降の電話対応は緊急時を除き、留守番電話へ切り替えを行った。 	
自己評価	<div>分析 (成果と課題)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育に実施もあり、全教職員で集っての情報共有の場が持ちにくい。伝達ボードを各人が確認することを中心に漏れのないよう情報共有ができた。 ・感染症対応など不測の事態には互いが連携をとり仕事内容を共有し対処できた。日常においてもその連携力で効率化できるところを探り、働き方改革を行う意識を高める。

	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡アプリを9月から試行導入。預かり保育など効率的な集計のほか、園からのお知らせにアプリを用い、ペーパーレス化を図る。 ・教職員伝達事項は、伝達ボードと連絡アプリを必要に応じて使い分け、情報共有を図る ・引き続き、ノー残業デーの周知と取組を行う。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリ導入による業務負担感と、伝達事項共有について教職員に聞き取り <p>アンケート:幼稚園からのアプリによる連絡(メール・掲示板など)は、保護者に必要事項が伝わっている</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリ活用は保護者にも利便性があり、業務改善にもつながる。しかし、保護者と先生が直接話をする機会が減ることでもある。様々な連絡事項を、保護者が先生に伝えようとする姿を子どもが見ることはコミュニケーションを学ぶ機会でもある。そこを補うことの工夫を願いたい。

最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div>	
自己評価	<div>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>